

ミステリ読書案内

2019. 12. 5 発行元

第5号 伊藤 剛

エラリー・クイーン ベスト表

いよいよ“本格派謎解き”ミステリの王様の登場。とても、このひとつの号で書ききれものではないが、最低限の必要事項を紹介していこう。足りない部分は、また後日、号を改めて書くことにしよう。

《エラリー・クイーン作品ベスト表》

1. Yの悲劇
2. Xの悲劇
3. オランダ靴の謎
4. レーン最後の事件
5. エジプト十字架の謎
6. ギリシャ棺の謎
7. Zの悲劇
8. ローマ帽子の謎
9. アメリカ銃の謎
10. フランス白粉の謎
11. スペイン岬の謎
12. シヤム双子の謎
13. エラリー・クイーンの新冒険(短)
14. 中途の家
15. 災厄の町
16. エラリー・クイーンの冒険(短)
17. チャイナ橙の謎
18. フォックス家の殺人
19. ニッポン樫鳥の謎
20. ドラゴンの歯
21. 生者と死者と
22. ハートの4
23. 悪魔の報酬
24. 九尾の猫
25. ガラスの村
26. 悪の起源
27. 帝王死す
28. 十日間の不思議
29. ダブル・ダブル
30. エラリー・クイーンの事件簿1(短)
31. 顔
32. エラリー・クイーンの事件簿2(短)
33. 盤面の敵
34. クイーンフルハウスの謎(短)
35. クイーン警視自身の事件
36. 犯罪カレンダー1~6月(短)
37. 恐怖の研究
38. 三角形の第四辺
39. 犯罪カレンダー7~12月(短)
40. 真鍮の家
41. 最後の一撃
42. クイーン犯罪実験室(短)
43. 心地よく秘密めいた場所
44. クイーン検察局
45. 第八の日
46. 最後の女 あと2冊

「本格ミステリ」の最高峰！

私は、海外ミステリのNo.1に『Yの悲劇』を挙げている。私がミステリを読み始めたきっかけであり、ミステリの本物の面白さを最初に伝えてくれたのがEQだったのだ。大恩人みたいなもの。

EQは、1929年『ローマ帽子の謎』でミステリ作家としてのスタートを切った。EQは、フレデリック・ダネイとマンフレッド・B・リーと従兄弟どうしの合作上での筆名。最初の頃は覆面作家で、バーナビー・ロス名義で出した『Yの悲劇』と、2人2役で、別人のように振舞っていたこともあったようだ。

ミステリ長編は39冊。短編集は形式によるので、何冊とかは言えないが、日本版は10冊程度。(著作の集計数についてはいろんな異論もあるようだ)。私は、ほぼすべてを読んでいくことになる。

「読者への挑戦」フェアプレイ

EQと言えば、まず2大シリーズ。『国名シリーズ』と『ドルリイ・レーン・シリーズ』がある。「国名」シリーズは、『ニッポン樫鳥』まで入ると10冊。小説の後半に「読者への挑戦」のページが入っていて、全ての手掛りを提示して、読み手が推理できるよう設定するフェアプレイを心がけている。この「謎解き・犯人当て」の形式が、日本のミステリ・ファンには受け入れられているのだと思う。

私も大学生の頃には、本格ものを読了するたびに、項目別の観点評価を行い、合計点を出し、順位をつけて楽しんでたものだった。(今はもうやっていない。)

『国名シリーズ』の第一位は『オランダ靴の謎』でどうだろうか。

『レーン』シリーズの方は、『X・Y・Z・最後』と4冊。いずれも素晴らしい仕上がりで、結末には驚愕させられる。1930年代のミステリの完成形を提示してくれる。

後期の作品群について

大学1年の時、たちまちに創元推理文庫の『国名』『レーン』は読み終えてしまった。60歳を過ぎた今の時点で初めて出会ったなら、どんな風を感じるのだろうかとも思う。大学2年からは、ハヤカワ・ポケット・ミステリ集めに入った。

後期の作品は、日本ではあまり有名にはならなかったが、作者自身は非常に愛着を持っているようである。特に『災厄の町』以降の『ライツヴィルもの』にその情熱が注がれている。論理・謎というよりは、より人間性の部分に迫ろうと考えたのだと思う。

EQの人物と作品の研究書の代表が、フランシス・M・ネヴィンズJrの『エラリー・クイーンの世界』。

(日本語版は1980年・早川書房刊) それほどページ数は多くない。EQの全作品を集めると同時に研究書に目を通すようになると、更にミステリを深く楽しめると思う。

エラリー・クイーンの大きな業績のひとつである専門誌『エラリー・クイーンズ・ミステリ・マガジン』発刊のことや、古今の名作の発掘に努め、数々のアンソロジーを編集したことなどは、別の号で紹介する予定です。